

## スギまきつけ床の時期別密度(第1報)

専門技術員 堀 田 成 雄  
技 師 草 葉 敏 郎

### 要 旨

スギ2年生山行苗生産のため、充実した幼苗育成を目標として、まきつけ床における幼苗成立密度の管理方法を検討した。その結果を要約すると次のとおりである。

- 1 成立本数が増えると、苗重・根元径・DH率・TH率・WH率などの値が低下し、充実した幼苗といえなくなる。苗高やRD率などは影響が少ない。
- 2 苗高10cm・根元径2.0mm以上の幼苗を生産目標とすると、得苗本数からは1,200本/m<sup>2</sup>、得苗率からは500本/m<sup>2</sup>が最も有利で、両者を考え合わせると、最終成立本数は600本/m<sup>2</sup>程度を目標にするのが妥当と思われる。
- 3 間引きの回数は、最終成立本数が400~500本/m<sup>2</sup>の場合は間引き回数が多いもの、最終成立本数が600本/m<sup>2</sup>では、間引き1回あるいは間引きなしが、苗木形質・得苗率などで優位を示している。
- 4 間引きの時期は、成立本数が400本/m<sup>2</sup>のように少ない場合は、やや遅れ気味の間引きが良く、成立本数が600本/m<sup>2</sup>の場合は、早い目の間引が有利である。
- 5 最終成立本数を400本/m<sup>2</sup>程度とした場合、当初からうすまきにして間引きを行なわない方法や、間引き時期が早すぎると、苗高の低い苗木が多くなる。

### 1 はじめに

優良なスギ2年生山行苗を出産するには、大形で充実した幼苗が必要であり、一般に苗高10cmのときに重量が3g以上あるような幼苗を、床替えしなければならないといわれている。

このような、幼苗を育成するには、施肥や適切な施業も大切であるが、成立密度の影響が大きく、宮崎が全国共通として考えた試案でも、苗高10cm・根元径2.1mm・苗重3.5g、あるいは、苗高12cm・根元径2.3mm・苗重4.4gであるような幼苗の秋季成立本数は700~600本/m<sup>2</sup>となり、2年生山行苗生産を目標とする場合に、理想的な幼苗の苗高が、12~16cmであるとすれば、仕立て本数は500本/m<sup>2</sup>内外が限度で、さらに苗高が大きくなるにつれて、仕立て本数は少くするようになっている<sup>2)</sup>。

最終の仕立て本数が異なる場合はもちろん、同じ本数であっても生育過程における密度の推移が、定期的に異なることによって、苗木の形質が変化すると考えられる。

これらのことから、スギのまきつけ床で仕立て本数・間引きの時期・間引き回数などを変えた育苗を行ない、生産された幼苗の形質と床替え後の成績から、スギ2年生山行苗生産を目標とする、まきつけ床の密度管理を明らかにする。

## 2 試験方法

試験は、昭和44～46年度に当场付属苗畑で行なった。

試験苗畑の土じょうは、岩手火山灰を母材とする軽しょうな黒色のじょう土で、磷酸吸収係数2,300・PH (H<sub>2</sub>O) 6.0～6.4程度となっている。

昭和44年・45年・46年の各年の平均気温は、それぞれ8.9℃・8.7℃・8.6℃で、また、植物生育期間(4～11月)の平均気温は、それぞれ14.3℃・14.6℃・13.8℃であった。

年間降水量は、それぞれ1,244mm・1,159mm・1,399mmであり、また、植物生育期間の降水量は、それぞれ988mm・859mm・1,039mmであった。

### (1) 試験区分

生長休止期の平均苗高が10～12cmになるものとして、それぞれ時期別の本数が表—1～表—3になるよう本数整理を行なった。

### (2) 施業

各年度ともまきつけは4月下旬に行なった。発芽は5月20日前後から始まったが、発芽出そろいは5月下旬であった。覆いわらを除去してから、8月上旬まで寒冷紗で日覆いをした。

施肥は、10a当り硫安30kg・尿素20kg・過石40kg・熔燐30kg・硫加10kg・鶏糞150kg・堆肥4,000kgを全量基肥とし、追肥は行なっていない。

除草は、手取り除草とニップ乳剤10a当り1.0ℓを併用して年4回行ない、雑草の発生をほとんど抑制した。

根あげは、9月上旬いっせに行ない、中旬に手直しをした。

表—1 1㎡当り時期別成立本数(昭和44年度)

区 分		5 月下旬	6 月中旬	7 月中旬	8 月上旬	8 月下旬	生長休止期
No.	間引き回数	発 芽	3 cm ±	4 ～ 5 cm	7 ～ 8 cm	10 cm ±	12 cm ±
	回	本以上	本	本	本	本	本
44 — 1	0	1,500	500	500	500	500	500
44 — 2	1	1,500	1,500	500	500	500	500
44 — 3	1	1,500	1,500	1,500	500	500	500
44 — 4	2	1,500	1,500	1,000	500	500	500
44 — 5	2	1,500	1,500	1,500	1,000	500	500
44 — 6	0	1,500	1,500	?	?	?	1,245

表一2 1㎡当り時期別成立本数(昭和45年度)

区 分		5 月 下 旬	7 月 上 旬	7 月 中 旬	8 月 上 旬	8 月 下 旬	生 長 休 止 期
No.	間引き回数	発 芽	3 cm ±	4 ~ 5 cm	7 ~ 8 cm	10 cm ±	12 cm ±
	回	本	本	本	本	本	本
45 — 1	0	1,670	400	400	400	400	400
45 — 2	0	1,250	600	600	600	600	600
45 — 3	0	1,280	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
45 — 4	0	3,130	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
45 — 5	0	2,300	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
45 — 6	1	1,490	1,000	400	400	400	400
45 — 7	1	1,550	1,000	1,000	400	400	400
45 — 8	1	1,350	1,000	1,000	1,000	400	400
45 — 9	1	1,880	1,500	600	600	600	600
45 — 10	1	1,720	1,500	1,500	600	600	600
45 — 11	1	1,970	1,500	1,500	1,500	600	600
45 — 12	2	1,680	1,000	800	400	400	400
45 — 13	2	1,550	1,000	1,000	800	400	400
45 — 14	2	1,940	1,500	1,000	600	600	600
45 — 15	2	2,060	1,500	1,500	1,000	600	600
45 — 16	3	1,620	1,000	800	600	400	400
45 — 17	3	1,740	1,500	1,200	900	600	600

表一3 1㎡当り時期別成立本数(昭和46年度)

区 分		5 月 下 旬	7 月 上 旬	7 月 中 旬	8 月 上 旬	8 月 下 旬	生 長 休 止 期
No.	間引き回数	発 芽	3 cm ±	4 cm ±	7 cm ±	9 ~ 10cm	11 cm ±
	回	本	本	本	本	本	本
46 — 1	0	1,215	400	400	400	400	400
46 — 2	0	1,420	600	600	600	600	600
46 — 3	0	1,830	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
46 — 4	1	1,550	1,000	400	400	400	400
46 — 5	1	1,490	1,000	1,000	400	400	400
46 — 6	1	1,925	1,500	600	600	600	600
46 — 7	1	1,780	1,500	1,500	600	600	600
46 — 8	2	1,560	1,000	1,000	800	400	400
46 — 9	2	1,885	1,500	1,000	600	600	600
46 — 10	2	2,040	1,500	1,500	1,000	600	600
46 — 11	3	1,870	1,500	1,200	900	600	600

### (3) 調 査

試験区は1区1 $m^2$ 、くり返し3回、配置は乱塊法とし、試験区のほぼ中心に0.1 $m^2$ の調査標準地を設定し、この標準地を間引きの際の基準とし、苗木は生長休止期の幼苗諸形質の掘取り測定調査の対象とした。

## 3 結 果 と 考 察

### (1) 得苗本数

#### ア 成立本数と得苗

間引きをしない各区について、苗高10 $cm$ 以上の幼苗本数とその得苗率（全本数に対する比率で以下同じ）、および、苗高10 $cm$ 以上でそのうえ根元径が2.0 $mm$ 以上ある幼苗本数と、その得苗率を示したのが図一1である。

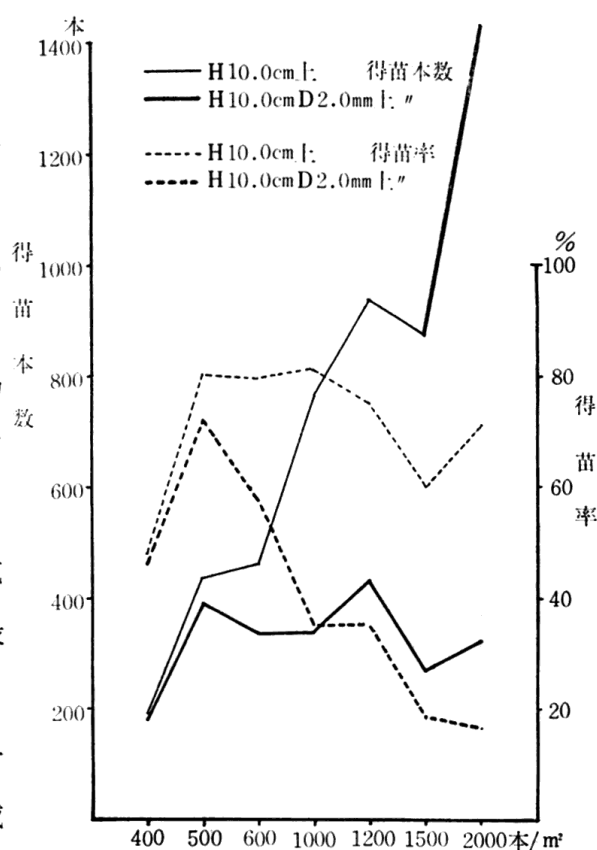
幼苗を苗高だけで規制した場合の得苗本数は、成立本数が増加するにつれて多くなる傾向にある。しかし根元径2.0 $mm$ 以上という太さの規制を加えると、成立本数が1,200本/ $m^2$ である時が最高で、1 $m^2$ 当り1,500~2,000本と成立本数が増加することによって、得苗本数はむしろ減少する。

これらのことから、根元径2.0 $mm$ で苗高10 $cm$ 以上の幼苗の得苗本数からみると、最終仕立て本数は1.200本/ $m^2$ 以下となる。

得苗率を比較すると、苗高のみを考えた場合には、成立本数が500~1,000本/ $m^2$ の時、得苗率が80%前後で最も高いから、成立本数は1,000本/ $m^2$ 以下が有利となる。

しかし、得苗本数の場合と同じように、根元径の因子を加味すると、得苗率は500本/ $m^2$ を最高に他の各区が減少している。

苗畑経営上からみた幼苗生産の要点は、規格をなるべくそろえるようにして、しかも得苗率を上昇させることが、その後の床替えや床替え苗の育成管理上大切であるから、苗高10 $cm$ 以上で根元径2.0 $mm$ 以上ある幼苗を生産目標とするならば、最終成立本数は600本/ $m^2$ くらいが限度となるのではなかろうか。



図一1 成立本数と得苗

## イ 間引き回数と得苗

図一2は、最終成立本数が400～600本/m<sup>2</sup>である区について、間引き回数ごとの得苗本数と得苗率を、図一1と同様、苗高のみ、および、苗高と根元径の両方の因子で規制してあらわしたものである。

一般にスギまきつけ床の成立密度は、常に葉が触れあうかあわないくらいに、間隔を保つのが良い

とされているから、間引きは、1回の間引き本数を少なくして、回数を多く行なうのが望ましい。

しかし、現実には労務事情などから、回数の多い間引は実行不可能であることが多く、年に3回くらいが限度と考えられる。

成立本数が400本/m<sup>2</sup>および500本/m<sup>2</sup>の区では、間引き回数が多いほど、得苗本数・得苗率が良くなる傾向にあるが、600本/m<sup>2</sup>では間引き1回、あるいは間引きなしが優位を示す傾向にあり、前二者とは逆の結果になっている。

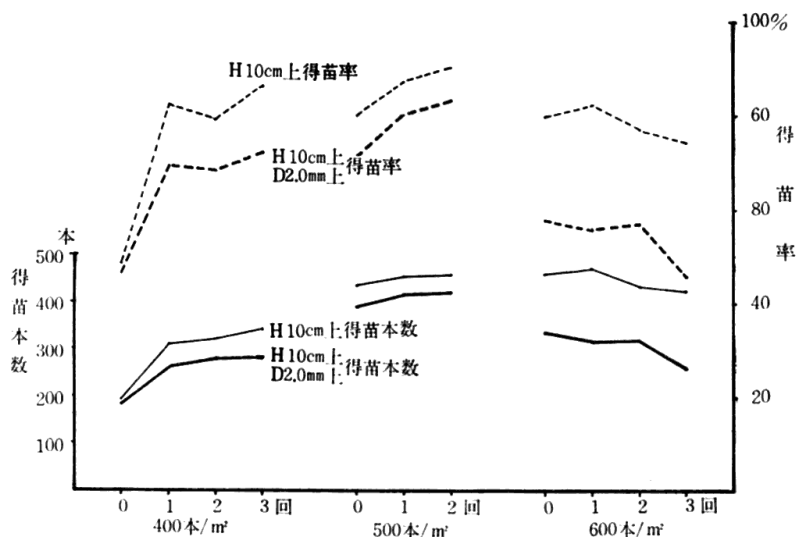
成立本数が400本/m<sup>2</sup>では、間引きの有無による差はなほ大きく、得苗本数で100本/m<sup>2</sup>・得苗率で20～30%程度の差が生じている。しかも間引きを行なっている区では、根元径因子を加味することによって、得苗率が10%以上低下するが、間引きなしの区は根元径因子を加味しても、得苗にほとんど影響がない。

このことは、間引きなし400本/m<sup>2</sup>区の得苗率あるいは得苗本数の低下は、苗高が不足しているものが多いことを示し、同じ間引きなしでも、成立本数が500～600本/m<sup>2</sup>の区では、このような現象はあらわれていないので、生長初期の成立本数が少なかったことが、上長生長を促進させる共のび現象を生じさせなかったためと考えられる。

## ウ 間引き時期と得苗

間引き回数を最大3回としたので、その時期を苗高が4～5cm・7～8cm・10cm前後の時に行なうことにした。

この苗畑でのスギまきつけ床の標準的な生長経過と対比すると、苗高に対応する時期は、それぞれ7月上旬・8月上旬・8月中～下旬であって、実施期日は年度によって若干のズレはあるが、苗高を基準



図一2 間引き回数と得苗

として、おおむねこの時期に間引きを行なっている。

なお、間引きは発芽直後ではなく、苗高が3cm前後になった時から行ない、間引きを計画しない区を含めて、それぞれ所定の成立本数になるよう本数規制を行なっている。

図-3は、最終成立本数が400～600本/m<sup>2</sup>の区のうち、間引き回数が1～2回のものについて、苗高10cm以上の得苗本数と得苗率および、苗高10cm以上で根元径2.0mm以上の得苗本数と得苗率を、間引き時期の早い遅いについて、間引き回数ごとに比較したものである。

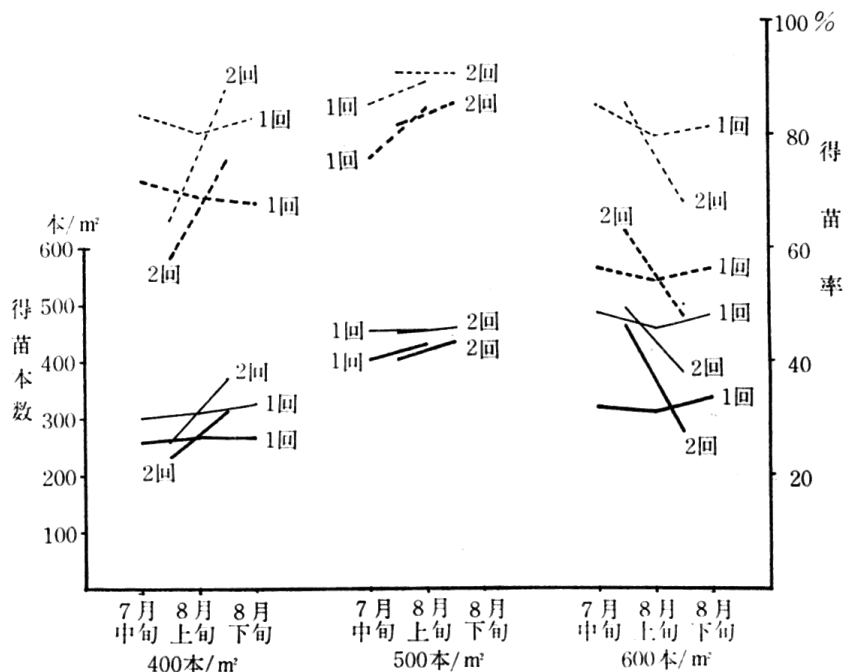


図-3 間引き時期と得苗

成立本数が400本/m<sup>2</sup>と500本/m<sup>2</sup>で間引き回数が1回の場合は、間引き時期の遅いものが得苗本数で優位を示す傾向にあり、根元径による規制を加えても、得苗の本数・率に数値の変動が少ない。

成立本数が600本/m<sup>2</sup>で、間引き回数が1回の場合は、間引き時期の早遅による得苗の傾向は不明確で、根元径による規制を加えた時の、得苗率・得苗本数の低下が目立っている。

間引き回数が2回の場合は、成立本数によって傾向が異なっている。

成立本数が400本/m<sup>2</sup>の場合は、間引き時期が遅い区が優位を示している。

成立本数が500本/m<sup>2</sup>の場合は、間引き時期による得苗の変化は、400本/m<sup>2</sup>の時と同様遅い区が優位を示す傾向があるが、その差は極めて少なくなっている。

これに対して成立本数が600本/m<sup>2</sup>の場合は、前二者とは逆に、間引き時期の遅い区が、得苗本数・得苗率とも低下し、さらに根元径による規制を加味すると、得苗本数の低下が大きくなる。

〔間引き回数と得苗〕の場合も、成立本数が400本/m<sup>2</sup>の場合に間引きなしの区得苗が少なかったが、ここでも成立本数の違いによって、間引き時期と得苗成績の傾向が異なっている。

植物の生育と密度の関係では、〔競争〕と〔協同〕の現象があることが知られていて<sup>1)</sup>、スギのまきつけ床でも、この両者の作用によって苗木形質が定まると考えられる。

成立本数が400本/m<sup>2</sup>のように、苗木が占有できる空間が比較的多い場合は、生育初期に競争現象はも

もちろん、協同現象も生じないための形質低下が結果として大きく働き、生育初期に協同現象の考えられた間引きの遅い区より、間引きの早い区の間引き成績が低下したと考えられる。

これに対し、成立本数が600本/m<sup>2</sup>の場合は、生長初期の条件より、苗木が大きくなった生長後期の競争が、間引き時期の遅い区において、得苗成績を低下させる原因となっている。この競争現象は、密度の影響を受けやすい太さの因子を加味した場合に、苗高のみの場合より得苗がいちじるしく低下することからも考えられる。

成立本数が500本/m<sup>2</sup>の得苗率や本数は、間引きの時期および回数の違いによる差が少なくなっていて、成立本数の面からは中間的な存在であり、時期的に生ずる競争と協同の現象が、結果的に相殺されてしまって、間引きの時期や回数による得苗の変動が少なくなったものと考えられる。

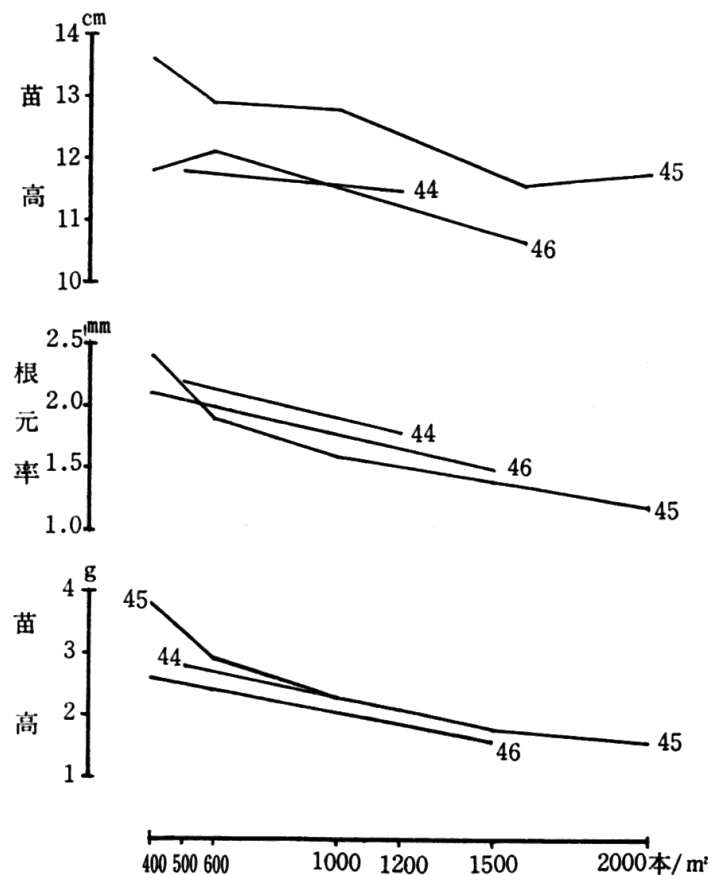
## (2) 苗木形質

苗木形質は、一般に苗高・根元径・苗重・枝 あるいはこれらの比率などによって表現される。しかし、これらの因子は成立密度によって均等な影響を受ける訳ではなく、成立密度による影響があらわれやすい因子と、さほどでもない因子がある。

図一4は、間引きなしの区について、苗高・根元径・苗重を、図一5は、DH率（根元径÷苗高×100）・TH率（地上部生重÷苗高×100）・WH率（苗生重÷苗高×100）・RD率（地下部生重÷根元径×100）を、それぞれ成立本数ごとに比較したものである。

これらの図から、苗重・根元径・DH率・TH率・WH率は、いずれも成立本数が増加するにつれて低下している。しかし、苗高・RD率などは、成立本数の違いによって一定の傾向を示さず、成立密度による影響が少ない。

最終の成立本数が400～600本/m<sup>2</sup>の範囲では、間引き回数あるいは間引き時期の違いによる、平均苗木形質の変動はきわめて少なく、いずれもくり返しや実施年度のちがいによる差異よりも小さく、その上一定の傾向性も見出し得なかった。



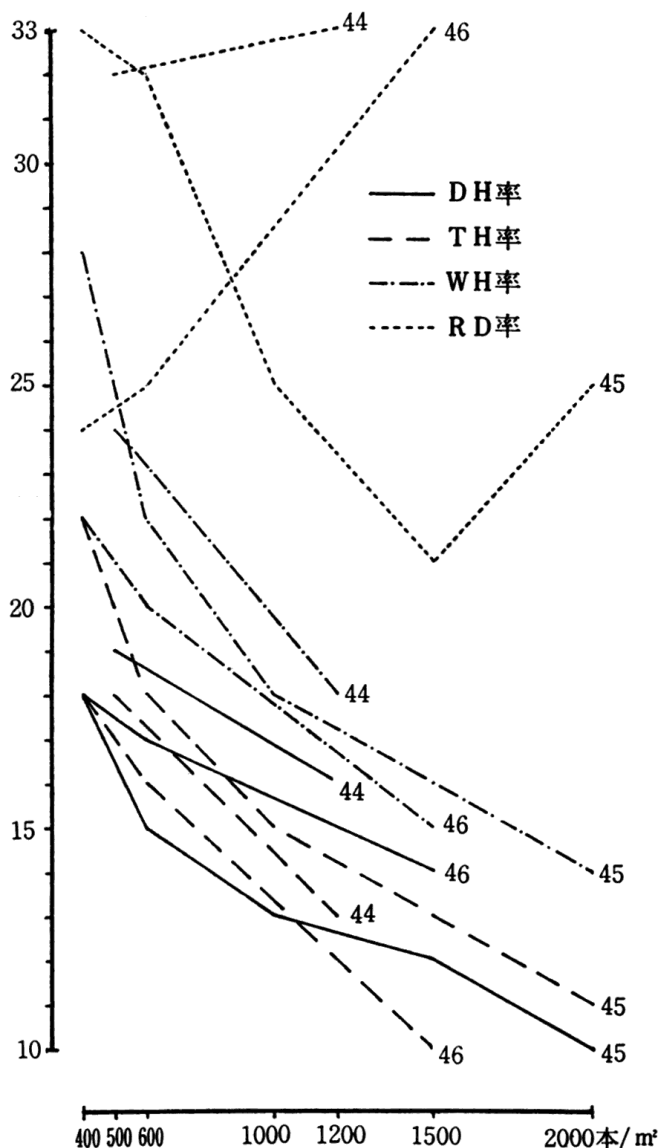
図一4 成立本数と苗木形質

また、2年生山行苗生産を目標とした場合、供用する幼苗が具備すべき形質も、数量化が明らかにされていない因子が多く形質が明らかにされた幼苗を床替えした結果から、帰納的に必要要因を決定する必要がある。

なお、付表として各区の平均苗木形質と規格別本数(平均)を掲げた。

#### 4 文 献

- 1) 園芸学研究集録第六輯, P69~81 (1953).  
吉良竜夫・穂積和夫・小川房人・上野善和: 栽植密度問題の生態学的考察
- 2) 講習会テキスト 林業種苗の生産配布に必要知識, P116, (1970). 林業種苗研究会編



図一五 成立本数と苗木形質

付表一 平均苗木形質 (昭和44年度)

区分	成立本数	苗木高 (H) cm	根元径 (D) mm	苗木重 (W) g	地上部重 (T) g	地下部重 (R) g	着生高 最長枝 cm	D/H × 100	T/H × 100	W/H × 100	R/D × 100
44 - 1	544本	11.8	2.2	2.8	2.1	0.7	3.8	19	18	24	32
44 - 2	531	12.5	2.2	2.9	2.2	0.7	3.8	18	18	23	32
44 - 3	508	13.3	2.3	3.2	2.4	0.8	4.1	17	18	24	35
44 - 4	495	12.1	2.3	3.3	2.5	0.8	4.4	19	21	27	35
44 - 5	508	12.1	2.4	3.4	2.4	1.0	4.2	20	20	28	42
44 - 6	1,245	11.5	1.8	2.1	1.5	0.6	4.7	16	13	18	33



付表一2 平均苗木形質（昭和45年度）

区分	成立本数	苗木高 (H)	根元径 (D)	苗木重 (W)	地上部重 (T)	地下部重 (R)	最長枝		$\frac{D}{H} \times 100$	$\frac{T}{H} \times 100$	$\frac{W}{H} \times 100$	$\frac{R}{D} \times 100$
							着生高	長さ				
45-1	392 <sup>本</sup>	13.6 <sup>cm</sup>	2.4 <sup>mm</sup>	3.8 <sup>g</sup>	3.0 <sup>g</sup>	0.8 <sup>g</sup>	3.5 <sup>cm</sup>		18	22	28	33
45-6	382	12.2	2.2	3.3	2.6	0.7	3.7		18	21	27	32
45-7	386	13.5	2.3	3.8	3.0	0.8	4.1		17	22	28	35
45-8	391	14.0	2.2	3.3	2.7	0.6	4.3		16	19	24	27
45-12	396	13.4	2.3	3.8	3.1	0.7	3.9		17	23	28	30
45-13	418	12.8	2.3	3.4	2.7	0.7	3.9		18	21	27	30
45-16	398	13.3	2.3	3.6	2.9	0.7	3.8		17	22	27	30
45-2	595	12.9	1.9	2.9	2.3	0.6	4.0		15	18	22	32
45-9	593	13.2	2.0	3.1	2.5	0.6	3.9		15	19	23	30
45-10	571	12.3	1.9	2.8	2.2	0.6	4.1		15	18	23	32
45-11	595	12.7	2.0	2.6	2.1	0.5	4.1		16	17	20	25
45-14	580	13.3	2.0	3.3	2.7	0.6	4.0		15	20	25	30
45-15	553	11.9	1.9	2.7	2.2	0.5	4.2		16	18	23	26
45-17	595	11.4	1.9	2.6	2.1	0.5	4.0		17	18	23	26
45-3	946	12.8	1.6	2.3	1.9	0.4	4.2		13	15	18	25
45-4	1,438	11.6	1.4	1.8	1.5	0.3	4.3		12	13	16	21
45-5	2,006	11.8	1.2	1.6	1.3	0.3	4.8		10	11	14	25

付表一3 平均苗木形質（昭和46年度）

区分	成立本数	苗木高 (H)	根元径 (D)	苗木重 (W)	地上部重 (T)	地下部重 (R)	最長枝		$\frac{D}{H} \times 100$	$\frac{T}{H} \times 100$	$\frac{W}{H} \times 100$	$\frac{R}{D} \times 100$
							着生高	長さ				
46-1	395 <sup>本</sup>	11.8 <sup>cm</sup>	2.1 <sup>mm</sup>	2.6 <sup>g</sup>	2.1 <sup>g</sup>	0.5 <sup>g</sup>	3.3 <sup>cm</sup>	6.4 <sup>cm</sup>	18	18	22	24
46-4	335	13.4	2.3	3.2	2.5	0.7	3.7	8.0	17	19	24	30
46-5	385	11.8	2.1	2.7	2.1	0.6	3.7	7.1	18	18	23	29
46-8	400	12.7	2.2	2.8	2.3	0.5	3.7	7.3	17	18	22	23
46-2	560	12.1	2.0	2.4	1.9	0.5	3.5	6.9	17	16	20	25
46-6	540	12.2	2.0	2.5	2.0	0.5	3.6	6.8	16	16	20	25
46-7	575	11.7	2.0	2.3	1.8	0.5	3.6	5.8	17	15	20	25
46-9	571	12.2	2.0	2.4	1.9	0.5	3.9	6.8	16	16	20	25
46-10	556	11.7	2.0	2.2	1.8	0.4	3.9	5.6	17	15	19	20
46-11	544	12.8	2.1	2.5	2.0	0.5	3.9	6.8	16	16	20	24
46-3	1,459	10.7	1.5	1.6	1.1	0.5	3.8	4.4	14	10	15	33

付表—4 間引き0回400本/m<sup>2</sup>区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本 2	本 56	本	本	本 58
7.0~ 9.9cm		47	101		148
10.0~ 12.9cm		7	97	2	106
13.0~ 14.9cm		2	44	28	74
15.0~ 19.9cm			3	9	12
20.0cm 以上					
計	2	112	245	39	398

付表—5 間引き0回500本/m<sup>2</sup>区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本	本 20	本 3	本	本 23
7.0~ 9.9cm		46	40		86
10.0~ 12.2cm		43	158	3	204
13.0~ 14.9cm			122	7	129
15.0~ 19.9cm			79	20	99
20.0cm 以上				3	3
計		109	402	33	544

付表—6 間引き0回600本/m<sup>2</sup>区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本 3	本 5	本	本	本 8
7.0~ 9.9cm	13	85	13		111
10.0~ 12.9cm		95	110		205
13.0~ 14.9cm		20	103	3	126
15.0~ 19.9cm		13	90	15	118
20.0cm 以上			5	8	13
計	16	218	321	26	581

付表—7 間引き0回1,000本/m<sup>2</sup>区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本 20	本 7	本	本	本 27
7.0~ 9.9cm	69	86			155
10.0~ 12.9cm	17	257	43		317
13.0~ 14.9cm		116	79	3	198
15.0~ 19.9cm		40	178	7	225
20.0cm 以上			17	7	24
計	106	506	317	17	946

付表—8 間引き0回放置区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本 17	本 30	本	本	本 47
7.0~ 9.9cm		254	7		261
10.0~ 12.9cm		396	145		541
13.0~ 14.9cm		86	152		238
15.0~ 19.9cm		23	112	13	148
20.0cm 以上				10	10
計	17	789	416	23	1,245

付表—9 間引き0回1,500本/m<sup>2</sup>区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本 70	本 43	本 2	本	本 115
7.0~ 9.9cm	117	338	9		464
10.0~ 12.9cm	28	381	37		446
13.0~ 14.9cm		149	86	2	237
15.0~ 19.9cm		46	124	8	178
20.0cm 以上		2	9	2	13
計	215	959	267	12	1,453

付表—10 間引き0回2,000本/㎡規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本 145	本	本	本	本 145
7.0~ 9.9cm	307	125			432
10.0~ 12.9cm	112	502	13		627
13.0~ 14.9cm	7	304	50	7	368
15.0~ 19.9cm		178	155	53	386
20.0cm 以上			33	15	48
計	571	1,109	251	75	2,006

付表—11 間引き1回400本/㎡区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以上	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本	本 6	本	本	本 6
7.0~ 9.9cm	1	42	18	1	62
10.0~ 12.9cm		34	86	5	125
13.0~ 14.9cm		11	66	6	83
15.0~ 19.9cm		3	59	23	85
20.0cm 以上			8	7	15
計	1	96	237	42	376

付表—12 間引き1回500本/㎡区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本 3	本 3	本	本	本 6
7.0~ 9.9cm		37	25		62
10.0~ 12.9cm		32	154	2	188
13.0~ 14.9cm		5	102	5	112
15.0~ 19.9cm			126	17	143
20.0cm 以上			9	3	12
計	3	77	416	27	523

付表—13 間引き1回600本/㎡区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本 2	本 4	本	本	本 6
7.0~ 9.9cm	4	85	8		97
10.0~ 12.9cm		126	93	2	221
13.0~ 14.9cm		22	109	4	135
15.0~ 19.9cm		6	94	13	113
20.0cm 以上			1	2	3
計	6	243	305	21	575

付表—14 間引き2回400本/㎡区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本	本	本 2	本	本 2
7.0~ 9.9cm		46	40	1	87
10.0~ 12.9cm		36	98	1	135
13.0~ 14.9cm		7	75	13	95
15.0~ 19.9cm			38	36	74
20.0cm 以上			9	8	17
計		89	260	59	408

付表—15 間引き2回500本/㎡区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0mm 以上	計
6.9cm 以下	本	本 2	本 2	本	本 4
7.0~ 9.9cm		17	28		45
10.0~ 12.9cm	2	30	192	4	228
13.0~ 14.9cm		5	126	7	138
15.0~ 19.9cm			66	10	76
20.0cm 以上			4	12	16
計	2	54	418	33	507

付表—16 間引き 2回600本/ $m^2$ 区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本 1	本 4	本	本	本 5
7.0~ 9.9cm	4	104	18		126
10.0~ 12.9cm		105	111		216
13.0~ 14.9cm		8	91	2	101
15.0~ 19.9cm		3	87	20	110
20.0cm 以上			5	4	9
計	5	224	312	26	567

付表—17 間引き 3回400本/ $m^2$ 規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0mm 以上	計
6.9cm 以下	本	本	本	本	本
7.0~ 9.9cm		33	23		56
10.0~ 12.9cm		46	56		102
13.0~ 14.9cm		13	76	20	109
15.0~ 19.9cm			89	36	125
20.0cm 以上				6	6
計		92	244	62	398

付表—18 間引き 3回600本/ $m^2$ 区規格別得苗本数

根元径 苗高	0.9mm 以下	1.0~ 1.9mm	2.0~ 2.9mm	3.0~ 3.9mm	計
6.9cm 以下	本	本 13	本	本	本 13
7.0~ 9.9cm	3	118	14		135
10.0~ 12.9cm		108	106	2	216
13.0~ 14.9cm		33	77	3	113
15.0~ 19.9cm		12	51	8	71
20.0cm 以上		3	19	5	27
計	3	287	267	18	575